

第182回拡大地方委員会①

2月26日（土）10時半～ 県教育会館



182回拡大
鉄労働組

国労

蘇我運輸区分会ニュース

議長選出

議長選出
地本嶋田執行委員（新小岩保線）の開会あいさつ、進行で始まり、議長には成田保線分会（同技保セ）の海後隆さん（59歳）が選出され、議事が進行していきました。

あいさつで「28名の職場で分会組合員は4名。退職者が出ても補充されず、若手社員が増え、夜遅くまで残って仕事をしているが、若手が調査した内容が不十分で、現場に再調査しに行か

なければならぬ現状が続いている。

代表選挙は取れなかったが、（色んなことを）若い人たちと話し合うきっかけにもなった。・・・等、報告がありました。海後さん、お疲れさまでした。

加藤委員長あいさつ

加藤委員長あいさつ
感染拡大を恐れて、開催に当たっては悩んだ1ヶ月だったが、皆さんと話し合いの場を設けることの大切さを改めて認識した。

議長声明を出させてもらった。

今、当たり前のことわりが奪われようとしている。変革2027の急ぎすぎる会社のやり方は、労働組合の弱体化も原因であり、私たち国労にもその一因があると考える。

昨年春闘を繰り返してはならない！労働者のための賃金を勝ち取らなければならない。分割民営化を二度とくり返してはならない。私たちにしか出来ない

運動を続けていく。労働組合の存在意義とは何なのか、国労の存在は魅力あるものなのか。多くの委員からの報告を踏まえ、9月の地本大会でしっかりとの方針案を確立していきたい。

当面の活動方針案

（抜粋）

社員の8割が労働組合未加入という中において、職場の現状や社員の不安や不満、悩みをどう解決していくか、労働組合の真価やその存在意義が問われている。

千葉地方本部はコロナ禍の状況で、様々な活動が制約される中においてもウィルス対策を徹底し、仲間との議論を大切にしてきた。様変わりした職場のありさまを検証し、当たり前にもの言える職場を取り戻すためにも、私たちに課せられた任務は山積している。

当面する闘いについて

- ① 組織強化・拡大の闘い
- ② 地域公共交通再生に向けた取り組みの強化
- ③ エルター社員制度等、再雇用をめぐる闘い
- ④ 社員代表選挙の取り組み
- ⑤ 春闘について・・・等々が提起されました。



民営化から35年、毎年2月26日にこだわった行事を続けてきたが、今年は（コロナ禍で）委員

社員代表選挙の信任投票には皆さんの信任を！

☆ 会社は内部留保した資金を取り崩し、日々奮闘している労働者の生活を支えるべきだ！